



マネーゲームにおける経済の虚像

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

経済が金銭主義へ至るとき、経済はその実像を失う。経済はライフラインを与え、現実は成り立つのである。

これはマネーゲームへの転換は現在において存在するのである。経済はその自己の使命を過去において抱いたことは真実なのである。

これらは大幅な社会転換を現実を与えたものであり、これら価値観の転換は肯定され否定されることはなかったのである。

これらは世界のグローバル化がこれら現実の統一を世界へ与え、経済における支配は、その現実への追従以外選択はなかったと考えられる。

これらはすべての現実がこれに従うことなのである。これは資本主義の結果が、金銭主義への転換であることは、マルクスが一つの真実を伝えたことを意味するものである。

これらは盲目に。新しい先端性というトレンドは、すべての存在における憧憬であり、これを否定するものはもはや存在しないのである。

これらは新しい社会システムと現実を世界へ拡大し、それは富というエンジンを有するのである。

競争原理と市場原理は、シカゴ学派の自由経済への信奉とともに、これら現実への判断を要求されるものである。

これらは企業倫理性という判断がこれらへの正しい選択を可能とできるのである。社会との共生や利益主義でない、企業の正しい理念の育成と行動は、新しい可能性をこれら現実においても可能とできるのである。

これら欲望の経済への参加は、正しい企業倫理性と先端システムにおける企業構築において、企業利益の適正化において対処できるはずである。これらは欲望という現実に対して企業の理念を要求し、未来における自己を模索できるのである。